

「ボケ」という言葉は嫌いだ。うちの祖父おばあちゃん、最近ボケてきちゃって「お父さんが忘れっぽくなって、ボケかしら」という言葉を耳にすることがあります。「ボケ」という病名はありませぬ。年だから仕方がないとそのまま放置してしまうとそれが認知症だと分かったときには、進行が進んでいて本人はもちろん家族の心の準備ができず、サポートが遅れてしまう原因になります。

「ボケ」という言葉は嫌い



高野あや子さん

いきいきサロン事業や100歳体操、カフェに参加し福祉活動に尽力されている

もし、「いつもと違った行動が多くなった」「物忘れが多くなった」など気にかかることがあれば早めにかかりつけ医に診てもらおうか、地域の人や行政に相談してください。ボケではなく、認知症という誰もがかかる可能性のある脳の病気という理解が大切です。

認知症の症状はさまざま

認知症の症状は単に物忘れだけではありません。もの忘れがまったくないから大丈夫だと家族の人が安心してると小さな初期症状を見逃してしまう恐れがあります。

早期発見につながった例でこんなことがあります。自分のかばんの中をしきりに気にして何かを探しているおばあちゃんに「何か探してるの」と声をかけたところ「何も探していないよ」と返事がありました。気になって家族の人に話をしたところ、「確かに家でもかばんの中をしきりに気に

家族がオープンになることが大切

家族の中には、地域の集まりなどの誘いに対して「人さまに迷惑をかけるから行っちゃダメだよ」と断ったり、周りの人がいつもと違う様子を心配したことに對して「まだボケちゃいないよ」と最初から否定する人も少なくありません。

家族のひとに伝えたいのは、認知症だから周りの人に迷惑をかける・はずかしいという気持ちにならなくていいということ。認知症の症状はさまざまです。少しでも気になる行動があれば、家族や周りの人が、早めにかかりつけ医に相談するよう促すことが大切です。



現在、町の人口における高齢者（65歳以上）の割合は31.7%です。

人口の4人に1人以上が高齢者となっており、今後さらに高齢化が進行していくものと予想されます。

高齢化が進むにつれて認知症にかかる人の数も増加傾向にあります。

認知症患者は全国平均で高齢者の約15%といわれており、美里町の高齢者数で換算すると約530人の人が認知症患者という結果になります。

しかし、

このデータは、あくまで全国平均から把握したものであり、地域には認知症と疑われるかた、またその予備軍とされるかたが潜在していると考えられます。

認知症は誰でもかかる可能性のある身近な病気です。

65歳未満の若い世代でも認知症（若年性認知症）になることがあります。

今後は、

認知症の人を単に支えるのではなく、認知症があっても安心して暮らしていける地域づくりが必要になると考えられます。

この機会に、認知症についてゆっくりと考えてみませんか？

認知症のこと みんなで話しあってみませんか？

「認知症介護家族のつどい」

認知症のさまざまな症状からの行動に困惑したり、対応の仕方に悩んでいることはありませんか？

「認知症介護家族のつどい」は認知症のかたを身近で支えている家族同士で気軽に話しあったり、思いに共感するなど、耳を傾け合う場です。ひとりで悩まずに、ここであなたの思いを話してみませんか。

認知症について興味があるかたの参加も可能ですので、お気軽にお越しください。

【開催日】 9月26日(木)

【時間】 午後1時30分～3時

【場所】 保健センター

【対象者】

- ・ 認知症のかたを在宅で介護している家族（本人も参加可能）
- ・ 認知症について興味があるかた

【申込期限】 9月20日(金)

【申込先】 地域包括支援センター ☎76-1325